

柳川郷土研究会
会誌「水郷」付録
すいきょう

瓦版

発行所 柳川郷土研究会
柳川市本城町113-1
発行人 武松 豊
編集責任者 金子俊彦



『柳河明証図会』に紹介されている寺社シリーズ① 長命寺(出来町)

明治時代に来日したエドワード・モースは料理人を雇った。その一〇歳の娘とその友達にそれぞれ一〇銭ずつを与え、江戸の町を一緒に歩いた。その娘たちはいづれも貧しい身なり、その娘達が一〇銭をどんなに使用するかをみるのが目的でもあった。モースを感動させたのは、彼女らは道端に座り三味線を弾いている女乞食に一銭ずつを与えた行為、おのれが貧しくても哀れな乞食には温かい心を示した明治期の人々。今の我々は大いに学ぶべきであろう。

渋沢栄一は経営者は「右手に算盤・左手に論語」とおしえている。ところで若い経営者ライブドアの堀江社長は遂に検察から拘束されてしまった。皮肉な言い方すれば、金儲けしか考えない者の行く末を教示した点で社会に貢献したことになった。これに反して柳川の生んだ文学の天才少女車椅子の野口朝香ちゃんの間がある。詠めば心から感動を覚える。「友だちってだから物」の詩は友達の友情に対する感謝の表現であろうが、忘れていけないのは先生の陰の働きであり、柳川の風土に残る心の優しさであろう。

この精神的風土こそ柳川の宝として後世に残したい。(土竜)